

このまちが好きだから

今回紹介した「大津まちおこし大学」「地域通貨水」は、皆さんと行政が共に「協働」するための事業です。そして、「大津町まちづくり基本条例」はまちづくりの基本ルールとして制定され、さらに協働のまちづくりを進めることになります。

大好きな大津町のために…

「住民自治」「情報共有」「参画」そして、「協働」。これは大津町まちづくり基本条例で定めた基本原則です。

第5次大津町振興総合計画（平成18年～平成28年）でも「めざすべきまちの姿」として

みんなであつくりう 元気 大津
人と自然にやさしい
心かよいあう まち

と定めています。

そう、元気な大津町は、みんなで作るのです。大津町が好きだから、もっと元気な町になって欲しいと思います、町のために頑張っている人はたくさんいます。しかし、もっともっと元気な大津町をつくるためには、もっと多くの人がまちづくりを行うことが必要です。

この町で生きている人

「大津町まちづくり基本条例」では、「住民」と

は、町内に住所を有する人。「町民」とは、住民、町内で働く人、町内で学ぶ人、町内で事業を営むもの、町内で活動するものなどを含むとしています。あくまでも、この条例だけの定義ですが、まちづくりでは多くの「町民」が参加することが大切なかもしれません。

大津町に仕事で来ている人。

大津町に結婚して来た人。

大津町の学校に通っている人。

みんな「町民」なのです。

さあ、一緒に立ち上がりましょう

今まで紹介した事業の他にも「地域福祉計画」や「まちづくり推進協議会」など「あなた」の力を必要としているところはたくさんあります。

もちろん、今でも大津町はとても良いまちです。しかし、もっともっと良いまちになって欲しいと思います。

今後のまちづくりは「協働」という言葉がキーワードになります。

みんなが一緒に、まちづくりをしなければならぬ時代です。
そのためには、

今こそ「あなた」と「わたし」が「一緒に」立ち上がるときなのです。

このまちのために…

特集
今こそ、
自分たちが立ち上がるときだ

おわり